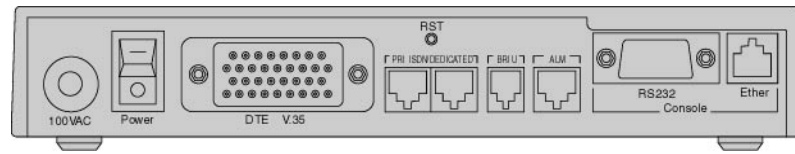


# LanverseMUX\_H04の仕様

写真は、LanverseMUX\_H04 / V.35です。



網インタフェース	LNK1	適用回線	高速デジタル専用線 (インタフェース 1.5M bps)	
		適用サービス	ハイ・スーパーデジタル 192Kbps, 256Kbps, 384Kbps, 512Kbps, 768Kbps, 1Mbps, 1.5Mbps デジタルアクセス / デジタルリーチ 1.5Mbps	
		インタフェース規格	TTC標準 JT-H31a準拠 S/T点	
		インタフェース構造	24B	
		配線構成	ポイント-ポイント接続	
		インタフェース形態	ポイント-ポイント接続	
	接続コネクタ	EO S 10173準拠 8端子 (8ピンモジュラーコネクタ)		
	LNK2	適用回線	高速デジタル専用線 (インタフェース 1.5M bps) 一次群インタフェース SDN交換回線	
		適用サービス	ハイ・スーパーデジタル 192Kbps, 256Kbps, 384Kbps, 512Kbps, 768Kbps, 1Mbps, 1.5Mbps デジタルアクセス / デジタルリーチ 1.5Mbps、又は、NSネット1500(H0)	
		インタフェース規格	TTC標準 JT-H31a準拠、TTC標準 JT-H3準拠 S/T点	
		インタフェース構造	24B	
		配線構成	ポイント-ポイント接続	
インタフェース形態		ポイント-ポイント接続		
接続コネクタ	EO S 10173準拠 8端子 (8ピンモジュラーコネクタ)			
LNK3	適用回線	基本インタフェース SDN交換回線		
	適用サービス	NSネット64回線交換 :2B+D)		
	インタフェース規格	S/T点 :レイヤ 1 :TTC標準 JT-H30準拠、レイヤ 2 :TTC標準 JT-Q92準拠、レイヤ 3 :TTC標準 JT-Q93準拠 U点 :TTC標準 JT-G96準拠 (DSL内蔵、DSL切り離し不可)		
	インタフェース構造	2B+D		
	配線構成	ポイント-ポイント接続		
	インタフェース形態	ポイント-ポイント接続		
接続コネクタ	8ピンモジュラーコネクタ (RJ11)			
DTEインタフェース	インタフェース種別	X 21	V 35	
	DTEポート数	X 21はV 35のいずれか 1ポート		
	物理的条件	X 21 : JIS X5102 (15ピンメスコネクタ)	V 35 : EO2593 (34ピンメスコネクタ)	
	電気的条件	X 21 : ITU-T V.11準拠	V 35 : ITU-T V.35/V.28準拠	
	論理的条件	X 21 : ITU-T X.21準拠	V 35 : ITU-T V.24-100準拠	
	同期方式	本装置より送信タイミングと受信タイミングを供給 (外部クロックによるタイミング同期は不可)		
	通信速度	192Kbps~ 3072Kbps (約 ± 1% 変動で変動) 接続DTEはこの供給クロックの変動に追従できること。		
	回線バックアップ時の発呼起動方式	X 21 : 回路DTR ON又はOFF (設定による) で自動ダイヤル V 35 : 回路C ON又はOFF (設定による) で自動ダイヤル		
	外部警報	RJ45 8端子 (8ピンモジュラージャック)		
	インタフェース	接続コネクタ	接点	
接点数		最大負荷電圧 : DC 24V 最大負荷電流 : DC 100mA		
接点の電気的使用		電源OFF、回線同期外れ、回線バックアップ起動の時に閉じる。		
コマンドライン・ コンソール・ポート	論理的仕様	調歩同期 38.4Kbps 無手順 (独自コマンド / レスポンス)		
	通信方式	DB9ピン メス 取り付けネジ : M2.6		
	物理的条件	ITU-T V.28 準拠		
マネジメント・ コントロール・ポート	電気的条件	rTNM統合管理装置		
	適用管理装置	無手順 (独自コマンド / レスポンス)		
	通信方式	10Base-T (半二重固定) (Ethernet TCP/IP)		
	インタフェースの物理的条件	時間推移トラフィック量、回線同期状態監視、DTEインタフェース状態モニタ		
その他	監視・制御項目	リモート監視・制御、回線バックアップ起動制御		
	電源電圧および消費電力	100VAC (90VAC~ 120VAC)、45~ 65Hz 最大 30W		
	電源プラグ形状	アース端子付き 2極平行		
	動作環境条件	周囲温度 0 ~ 40 相対湿度 95%以下 (氷結、結露のないこと。) 約 219mm (W) x 38mm (H) x 180mm (D) 約 1.5kg		



ランバースマックス

# LanverseMUX<sup>TM</sup>

# H04

エイチゼロ・ヨン

帯域拡張 縮退制御機能付き  
高速一次群デジタル多重ターミナルアダプタ

高速一次群のエコノミー専用回線と SDN回線、  
それぞれの特性を活かした経済的な高速通信を提供します。



日本ダイレックス株式会社 ISO9001認証取得

東京本社 / 〒101-0047 東京都千代田区千代田 2丁目 5番 5号 城南ビル Tel: 03-5207-7160  
 大阪支店 / 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 2丁目 14番 4号 MF新大阪ビル Tel: 06-6394-5751  
 名古屋支店 / 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 3丁目 2番 3号 名古屋日興証券ビル Tel: 052-269-8680  
 福岡営業所 / 〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅前 1丁目 9番 1号 大成博多駅前ビル Tel: 092-473-8561

製品に関するお問合せ : Tel 03-5207-7160 Fax 03-5296-1918 Email sales@direx.com URL http://www.direx.com

本資料に記載された仕様、デザインなどは、予告なしに変更することがあります。

© JAPAN DIREX CORPORATION 20100426

www.direx.com

# ランバースマックス LanverseMUX H04 エイチゼロ・ヨン

帯域拡張 縮退制御機能付き  
高速一次群デジタル多重ターミナルアダプタ

高速一次群のエコノミー専用回線と SDN回線、  
それぞれの特性を活かした経済的な高速通信を提供します。

LanverseMUXに高速タイプのH0が登場。



## 瞬間高速伝送の通信コストをネットワークパフォーマンスを落とすことなく大幅に削減

LanverseMUX\_H04は、高速一次群のエコノミー専用回線(1.5M bps)と従量制課金の NSネット1500の特性を活かして、P通信に見られるバースト性(時間的変動性)通信に対して、適切な感応速度を維持しながら経済的なネットワークを提供するために開発されたダイナミック逆多重装置(インバース・マルチプレクサ)です。

LanverseMUX\_H04は、通信量の時間的変化を常に計測して加速変化量により通信量のバースト性を予測し、通信量に応じた適切で経済的な通信帯域をH0(384Kbps)単位の通信帯域拡張 縮退により提供します。

## ダイナミック帯域拡張 縮退機能に専用回線のバックアップ機能を追加

LanverseMUX\_H04は、エコノミー専用回線(1.5M bps)と従量制課金の INSネット1500を併用して192Kbpsから最大3072Kbpsまでの実トラフィック量に応じた通信帯域を経済的に提供することが基本機能ですが、収容している専用回線に障害が発生したときのみ、回線バックアップとして、NSネット1500に接続して384Kbps~最大1536Kbpsの迂回通信帯域を提供できます。

この場合もトラフィック量に応じて通信帯域を384Kbps~最大1536Kbpsに変化させますので、経済的なバックアップ回線を提供します。

## 高速デジタル専用線の回線バックアップ装置として利用

すでに、高速デジタル専用線で1.5M bpsの通信をおこなっているお客様に、高速一次群の従量制課金の ISDN回線バックアップを提供します。

LanverseMUX\_H04は、NSネット1500のH0サービス回線のみを使用して、384Kbps 768Kbps 1152Kbpsそして1536Kbpsのダイナミックに通信帯域が変化するバックアップ通信帯域を提供します。バックアップの起動はV.35のDTEインタフェースのDTR ONやCD OFFなどにより行なえます。

## SDN利用日時指定機能

SDN回線の帯域拡張や回線バックアップの起動を日時指定により制限することができます。休日や夜間などの必要でない日/時間帯に不要にSDNに接続することがなくなりますので、より経済的です。

## 自動同期再確立機能

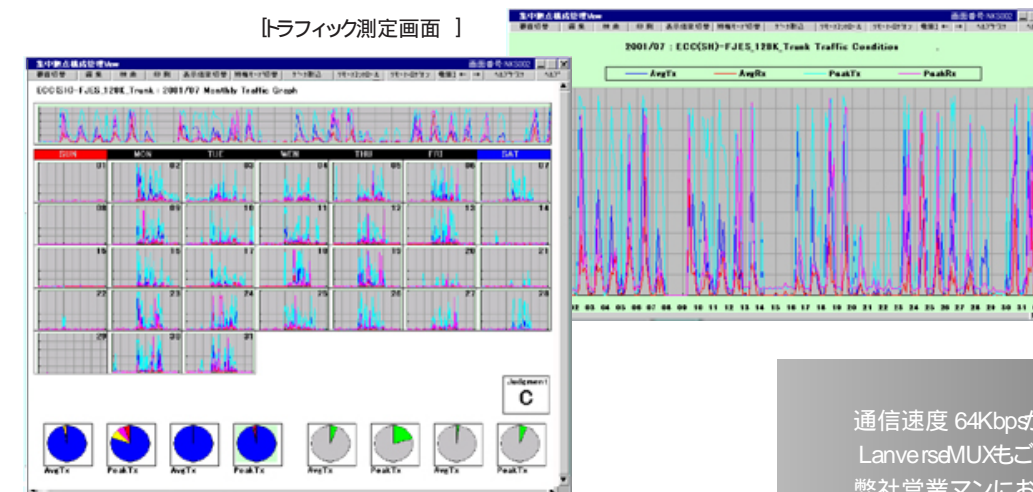
LanverseMUX\_H04は、SDN網内の互いに独立した通信路を経由するH0チャンネルの相互遅延差を常に監視していますので、もし、局内設備の故障などにより経路の迂回が発生してH0チャンネルの相互の遅延差に変化が生じた場合には、DTEの通信は瞬間的にはエラーが発生しますが、ただちに再同期処理が起動されてエラーの無い状態に復帰します。他社のバルク多重装置にはこの機能がなく、DTEのエラーにより操作者に知覚されてはじめて手動で再同期起動をしないものがあります。

## ランバースビュー シー エルタック LanverseV\_EW\_C-LTAC管理装置 (オプション装置)

複数の LanverseMUX\_H04をユーザが直接運用 管理するために LanverseV\_EW\_C-LTAC管理装置を用意しています。  
・C-LTAC管理装置は、ユーザのセンターに設置して外部からのアクセスではなく、総ての LanverseMUX\_H04をインバンド通信でユーザのセンターから設定 管理することができます。  
・通信管理者の負担を軽減するために、一目でその日のトラフィック分布が把握できるようにトラフィック量をグラフで表現して、視覚による最適化調整が行えるように設計されています。

## LanverseMUX H04管理サービス (オプション サービス)

・当社では、ダイレックスCCCセンターから遠隔操作による、LanverseMUX\_H04の管理と通信トラフィックの最適化管理のサービスを提供しています。  
・官公庁、金融機関、その他ミッション・クリティカル情報を取り扱うユーザーに対しては、通信管理サービス用「セキュリティ監視ネットワーク」を介して、トラフィック情報の吸い上げと分析 報告を一貫したサービス・パッケージとして提供しておりますので、ご相談下さい。



・LanverseMUX\_H04は、C-LTAC管理装置を導入されなくても弊社の「通信管理サービス」をご利用になると、通常の通信終端装置として、そのまま導入できるようになっています。

通信速度 64Kbpsから512Kbpsタイプの LanverseMUXもございます。詳しくは弊社営業マンにお申し付けください。

